

17 Going Forward





"Fukuoka Growth"の終刊に寄せて



福岡を取巻く環境は目まぐるしく変化し続けています。

- 2013年度だけを見ても、富士山の世界文化遺産への登録、2020年の東京五輪・パラリンピック開催決定、JR九州の「ななつ星in九州」の運行開始など、日本や九州を浮揚させる明るいニュースが沢山ありました。
- 一方で、東アジア、中東、中央アジアなどの政情不安、世界各地で頻発する災害、国内外の不透明な経済見通しなど、課題も山積しています。
- そのような中、人口が150万人を突破した福岡市では、新しい総合計画が策定され、観光庁より「グローバルMICE戦略都市」に指定され、国家 戦略特区に申請するなど、持続的な成長に向けた歩みを進めています。

都市の定点観測に基づくコミュニケーションが重要になっています。

- 社会の変化がますます速くなっている今日、成長に向けた地域戦略の進捗を評価し、必要に応じて見直していくことが不可欠です。
- そのため、データによる都市の定点観測の重要性は増しており、当研究所のみならず様々な関係者が、福岡を観測し、それを基にコミュニケーションを深めていくことが重要です。

コミュニケーション・ツールの一例として『Fukuoka Facts』をご紹介します。

- 『Fukuoka Facts データでわかるイイトコ福岡』(http://facts.city.fukuoka.lg.jp/)
- URC情報戦略室も参画しているこの取り組みでは、『Fukuoka Growth』の内容の一部が、クリエイティブの力によって素晴らしいコミュニケーション・ツールに昇華されました。
- その結果、自治体が持つデータを、街の宣伝・広告活動に繋げる優れた取り組みとして産官学組織「オープンデータ流通推進コンソーシアム」から「 日本マイクロソフト賞」をいただきました。このように、データが地域を考える人々のコミュニケーション・ツールになって行くことが、私たちURC情報戦略 室の願いです。

『Fukuoka Growth』は、今回の第17号を持って終刊します。

- 世界地図上の福岡の位置を明確に定める一助になることを目指して、2013年6月の創刊から9ヶ月間、ほぼ隔週ペースで発行して参りました。
- これまでに目を通して下さったり、データ収集や分析のご協力下さった皆様に、心からお礼申し上げます。
- これからも、Fukuokaを、そしてURC情報戦略室を、よろしくお願いします。
- 4月以降は、さらに進化した形で、定期的に情報の発信・提供を行う予定です。

『Fukuoka Growth』book(冊子)を発刊します。

• これまで発行した『Fukuoka Growth』を再編集、再構成した冊子(B5版)を発行します。データでみる福岡市の成長ポテンシャルの確認はもちろん、英語併記となっておりますので、海外を含む他の地域へ、福岡市の魅力や成長力を紹介、PRするツールとしても、ぜひご活用ください。詳細は、近日中に当研究所ホームページで発表します。

2014年3月17日 公益財団法人福岡アジア都市研究所 情報戦略室長

後藤太一

成長目標に向けた戦略が産学官民の連携によって既に稼働

URC
futured a datan
orban Research Contine
FG17-002

福岡地域の成長目標



新たな雇用と起業を生み出す国家戦略特区への提案

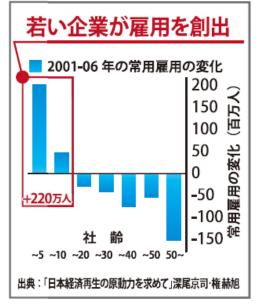


コンセプト 雇用を産み出す起業(スタートアップ)へのチャレンジを応援する社会へと日本を再構築する

1.雇用を生み出すスタートアップとは

(1) 意義

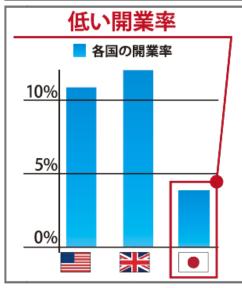




(2) 現状

○低い開業率。廃業率を下回る

国	開業率	廃業率
日本	約 4%	約4.5%
アメリカ	約10%	約9.7%
イギリス	約12%	約9.5%



(3)課題

Phase 1 起業検討期

- ①意欲・スキルの低さ
 - ・起業スキルがあると考えている人 15.2%(42カ国中、下から2番目)

Phase 2 立ち上げ期

②環境の弱さ(手続き・コスト・雇用)

開業規制における手続き

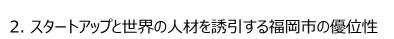
国	手続き数	日数
日本	8	23日
アメリカ	6	6⊟
韓国	5	7日

Phase 3 成長期

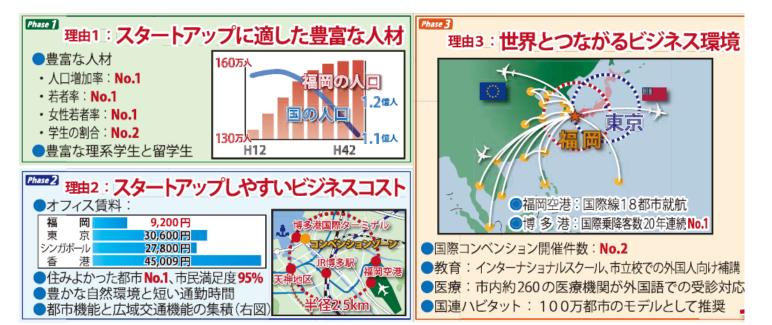
③投資環境の弱さ

ベンチャーキャピタル投資実績額 ・欧州の1/30以下、米国の1/10以下

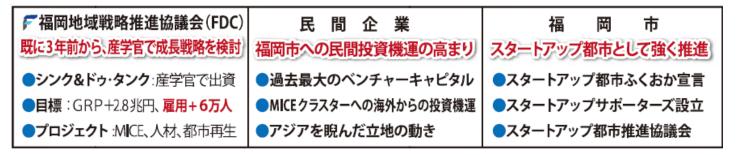
④グローバル化の遅れ





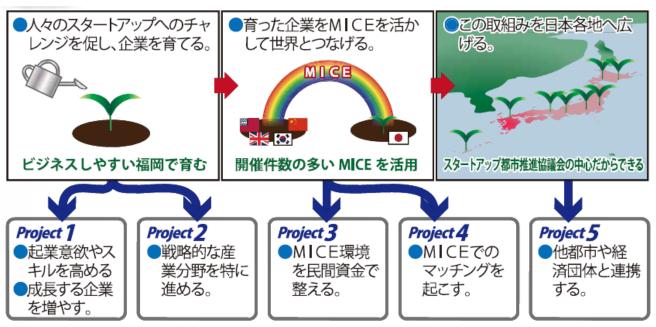


3. 福岡市の成長目標に向けた動き





4.戦略実現に向けた取り組み・提案プロジェクト



国への提案プロジェクト

- ① グローバルに活躍するベンチャー企業や新規事業の創出
- ② 戦略分野の推進(クリエイティブ・ヘルスケア・食)
- ③ アジア有数のMICEクラスター整備と民間開放のための特例措置
- ④ 日本初、MICEイノベーション創出体制構築・実証実験の誘致・実施の環境整備
- ⑤ 都市連合による日本の改造~スタートアップが評価される日本へ~



6. 主な提案項目

【スタートアップ関連】

- ・外国人材に係る在留資格要件の緩和
- ・スタートアップ期間に限定した解雇規制の緩和
- ・スタートアップ期間に限定した法人税減免
- ・経営者個人保証の見直し等

【MICE関連】

- ・MICE施設整備補助の特例
- ・屋外空間等の活用に関する特例措置
- ・ビザ発給の特例措置
- ・クルーズ船内のカジノ営業の緩和 等

【グローバル環境】

- ・一定のルールの下での外国医師による医療行為の規制緩和
- ・学校教育法第1条規定の学校の国際バカロレア認定要件の緩和等

7.成果目標

成果目標(KPI)及び効果

福岡市における開業率:20%(現状6.4%)

※国の日本再興戦略に掲げる目標(開廃業率欧米並10.0%)の2倍 「効果」 新規事業所による雇用創出者数50万人(今後10年間)

8.フェーズごとのプロジェクトイメージ

起業フェーズごとの対策とプロジェクトのイメージ







"Fukuoka Growth"福岡市の成長カ -クオリティで存在感を示し、世界中からクリエイティビティを集める-

これまで、さまざまなデータをもとに福岡市の成長ポテンシャルをみてきましたが、世界には、欧米を中心とした伝統的な大都市や、アジアを中心とした成長著しい巨大都市群があり、現在の福岡市の存在感は、必ずしも高いものではありません。

しかし、都市の強みは「規模」だけではありません。

近年、グローバル経済の進展によって世界規模での地域分業が進む一方、価値の創造には、よりクリエイティビティ(創造的な価値)が重視され、イノベーション・アンカーによって、進化のスピードが加速し、先進的で多様な価値が次々に生み出されています*。

「失われた20年」と言われる日本経済ですが、付加価値創造型の成熟した産業構造は、依然として世界で存在感を示し続けており、一人ひとりの生産性は高い水準を維持しています。

規模から質を問われる時代へ。創造性を発揮するために、都市の規模は必ずしも重要ではありません。利便性が高く、効率的で、そして快適に活動ができるかどうかが重要です。

福岡市が持つ高い生活の質(Quality of Life)は、世界中から多くのクリエイティブ・クラス(創造的な人材)を引き付けるポテンシャルがあり、アジアのダイナミクスと日本の成熟性を結ぶゲートウェイ、交流拠点として、稀有な地理的条件を有しています。

福岡市のバックグラウンドには、一体的に発展する福岡都市圏があり、さらには多様で多彩な資源、産業を持つ九州地域があります。九州地域は、地方都市圏としては国内最大の経済規模を有し、福岡市はその中心都市として、人材や資源、金融などの多くの価値が集まっています。東京、大阪、名古屋の国内三大都市圏に次ぐ大都市圏を形成する一方、都市と豊かな自然との絶妙なバランスで、住む人の高い満足度を実現しています。

この福岡の持つ魅力、成長力をいかし、常に世界の中の福岡という視点を持ちながら、確実に、効率的に地域の経済成長を実現するためのビジョンを描き、実行に移すことが重要です。福岡市も参加する産学官民の成長戦略実行組織・福岡地域戦略推進協議会では、既にさまざまな取り組みを始めています。

Fukuoka Growthは、さまざまな福岡市の成長ポテンシャルを示してきましたが、これまでの取りまとめとして、冊子化して発行する予定です。 今後は、国と国の比較にとらわれない「世界の都市と福岡市の関係性」を、データを通して情報発信する新たな形に進化して、近日中に再開する 予定です。
(情報戦略室 畠山 尚久)